

分野（３）

ぜん息発症予防・健康回復のための知識の体系化に関する調査研究

③COPD患者の機能回復に関する調査研究

研 究 課 題 名： COPD患者と公害認定患者に対する重症度別、
簡便呼吸リハビリテーションプログラムの多施設間無作為比較試験に関する調査研究

調査研究代表者氏名： 千 住 秀 明

評価コメント

○呼吸リハビリテーション効果の評価を公害患者で施行した成績は評価できる。二つの並列研究の進行が明確に見えるので今後に期待できる。

○COPD患者に対する呼吸リハビリテーションの方法が公害認定患者の運動の能力を高める効果はあったが、実際のADLや精神心理的な向上に十分寄与していないことが明らかになり、今後公害認定患者にはCOPDを対象としたものに公害認定患者に特異的な方法論を追加する必要性が示唆されたという成果であり、今後の研究の発展が期待される。

○公害認定患者集団と、その他のCOPD患者の呼吸機能の経年変化、簡易呼吸リハビリに対する反応の違いなど、興味深い所見を得ているが、例数がまだ少ないので、今後も研究を継続する必要がある。

○公害認定患者の中にはぜん息だけではなく、COPDも含まれているが、長崎のCOPDの患者と公害認定患者全体を含めたもので、同一に語って良いのであろうか。公害認定患者の中のCOPD群と喘息群とで区別に論ずる必要はないのであろうか。両者は類似した疾患ではあるが、別の疾患という考えに基づく必要はないのか。

○公害認定患者と比較対照していることは評価できるが、公害認定患者のうち、慢性気管支炎、肺気腫と認定時診断された患者は異なったデータを示すのではないかと思う。

○喘息患者の呼吸機能が低下するか否かは以前から議論の多いところである。本研究では呼吸機能の低下は加齢による平均的範囲内ということで、一つの貴重なデータである。ただ、公害認定患者といっても、気管支喘息とCOPD（慢性気管支炎及び肺気腫）では病態に大きな差がある。肺機能障害及び呼吸リハビリテーションの効果に関する検討も、各疾患別に分けて検討する必要がある。

○呼吸機能検査の割に、息切れなどの訴えが公害認定患者に多いのが、精神的な面が加味されているのか、症状がCOPDに比べて若年令に発症し、運動制限された時期が長く持続してしまったためなのか、またPM2.5で問題となっている循環系への影響も加味されているのか、さらに検討が必要であろう。

○もし、公害患者の呼吸機能の低下が加齢による平均的範囲内であるならば、敢えて呼吸のリハビリテーションはやらなくても良いのではないかと思う。